

No.	022	—	2001	事務事業名	救急法普及に関する事務	細事務事業名		公的関与	1
-----	-----	---	------	-------	-------------	--------	--	------	---

P L A N	課 名	警防課	係 名	救急救助係	電話番号	089-964-5210	メールアドレス	keiboka@city.toon.ehime.jp			
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度	期間設定なし	
	総合計画	政策目標	第1章 地球と共生する快適環境のまち			政策項目	6 消防・防災体制の充実		主要施策	(4) 消防・救急体制の充実	
	事業の対象	東温市民及び東温市に就業している者				根拠法令	消防法				
	事業の目的	最終的	東温市内における救命率の向上			今年度	e-ラーニングを利用した普通救命講習を推進し、普通救命講習受講者の増加を目指します。				
	活動内容	①	救急法の指導員や普及員教育内容の見直しを行い、指導者の更なるレベルアップを図ります。			④	e-ラーニングを利用した普通救命講習を推進し、普通救命講習受講者の増員を図ります。				
		②	上級救命講習(8時間)を開催し、応急手当と救命処置の普及を図ります。			⑤	短時間の講習会は最も市民が受講し易い講習であるため、講習内容の見直しを図ります。				
		③	普通救命講習Ⅰ(3時間)普通救命講習Ⅱ(4時間)を開催し、応急手当と救命処置の普及を図ります。								
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	最終目標	
		普及員講習		回数 参加者数		回・人	目標 1回 15人	1回 15人	1回 15人	100人(累計)	
					実績 0回 0人	1回 2人					
上級救命講習		回数 参加者数		回・人	目標 1回 20人	1回 20人	1回 20人	1,000人(累計)			
					実績 2回 38人	2回 56人					
	普通救命講習		回数 参加者数		回・人	目標 50回 800人	50回 800人	50回 800人	10,000人(累計)		
						実績 43回 521人	28回 537人				

D O	予算費目	会計	一般会計			費目名	消防			費	
	直接事業費		平成 25 年度決算	平成 26 年度決算	平成 27 年度予算	備 考					
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円						
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円						
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円						
		一般財源	75 千円	71 千円	162 千円						
		計(A)	75 千円	71 千円	162 千円						
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.483 人 2,943 千円	0.364 人 2,189 千円	0.339 人 2,041 千円						
		臨時職員工数・経費	0.000 人 0 千円	0.000 人 0 千円	0.000 人 0 千円						
	全体事業費(A+B)		3,018 千円	2,260 千円	2,203 千円						

C H E C K ・ A C T I O N	一次評価者	救急救助係	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	拡大・充実
	項目	評価項目の説明(一次評価者のコメント)												
	必要性	救命率向上の為に、継続して救命講習を実施する事が必要です。												
	有効性	AED及び応急手当重要性について市民の関心も高くなっています。												
	達成度	講習会だけでなく「救急の日」や「健康フォーラム」等のイベントを利用し、応急手当の普及啓発活動を訴えかけます。												
	効率性	女性消防団員を応急手当指導員として育成計画を作成し、今後は地域での救命率向上に努める必要があります。												
	当面の課題	市民が受講し易い短時間(1時間程度)の講習が増加し、普通救命講習(3・4時間)は減少しています。普通救命講習の受講者を増やす為にe-ラーニングを利用した普通救命講習が実施できるように環境整備を行ないましたが、思うような効果が上がっていません。												
	改 革 画	e-ラーニングを利用した普通救命講習のメリットを市民に知ってもらい、e-ラーニングを利用した普通救命講習の受講者の増加を目指します。訓練資機材についても更新計画を立て計画的に整備し、普通救命講習の充実化を図ります。												
	二次評価者	警防課長	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	拡大・充実
	二次評価での指摘事項	普通救命講習率、社会復帰率の向上を図るため講習内容の検討もを行い、救命率の向上に努めて下さい。												

No.	022	—	2004	事務事業名	愛媛大学・東温市医師会との連携業務に関する事務及び業務				細事務事業名					公的関与	1
-----	-----	---	------	-------	-----------------------------	--	--	--	--------	--	--	--	--	------	---

PLAN	課 名	警防課		係 名	救急救助係		電話番号	089-964-5210		メールアドレス	keiboka@city.toon.ehime.jp			
	事業区分	ソフト事業			事業運営方法	直営		実施計画	非該当	事業期間	年度	～	年度	期間設定なし
	総合計画	政策目標	第1章 地球と共生する快適環境のまち				政策項目	6 消防・防災体制の充実		主要施策	(4) 消防・救急体制の充実			
	事業の対象	東温市民及び市内就業者						根拠法令						
	事業の目的	最終的	東温市内で発生した脳卒中患者に対して、救急隊による早期搬送と医療機関における急性期治療の充実を図ります。					今年度	脳卒中救急患者搬送症例検討会や医師指導の下にシミュレーション訓練を実施し、病院前救護を担う救急隊員のレベルアップを図ります。					
	活動内容	①	東温市脳卒中救急患者搬送連絡協議会に関する事務・症例検討会等をおこない、当市においての脳卒中患者救急搬送ネットワークの構築					④	医学祭への協力と教育学部学生の研修受入					
		②	東温市と東温市医師会の主催する健康フォーラムに参加し、市民に対して応急手当と救命処置の普及啓発活動の実施					⑤	医学部学生の救急医療に関する研究(社会医学実習)への協力					
		③	愛媛大学医学部研修医や新任看護師に対して救命処置の指導											
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由			単位		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	最終目標		
		東温市脳卒中救急患者搬送連絡協議会と検討会		年 1 回			回	目標	1 回	1 回	1 回	年 1 回		
						実績	会議1回・検討会1回・研修会1回	会議1回・検討会1回・研修会1回						
東温市と東温市医師会の主催する健康フォーラム参加		年 1 回			回	目標	1 回	1 回	1 回	年 1 回				
						実績	1 回	1 回						
						目標								
						実績								

DO	予算費目	会計	一般会計				費目名	消防				費	
	直接事業費		平成 25 年度決算	平成 26 年度決算	平成 27 年度予算	備 考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円								
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源	75 千円	44 千円	100 千円								
		計(A)	75 千円	44 千円	100 千円								
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.131 人 798 千円	0.136 人 818 千円	0.131 人 789 千円								
臨時職員工数・経費		0.000 人 0 千円	0.000 人 0 千円	0.000 人 0 千円									
全体事業費(A+B)		873 千円	862 千円	889 千円									

CHECK・ACTION	一次評価者	救急救助係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
	項目	評価項目の説明(一次評価者のコメント)												
	必要性	愛媛大学医学部や東温市医師会との連携協力を継続して行く事は、東温市における救急医療体制の充実に繋がっています。												
	有効性	医療機関との連携する事により、救急医療体制の充実と災害時における医療体制の充実に繋がります。												
	達成度	愛大脳卒中センターについては、受入の時間的制限が緩和されているため、更なる隊員の知識の向上が望まれます。												
	効率性	緊急性・重症度の高い傷病者が近隣医療機関で治療を受けられる事は、傷病者の社会復帰率や救命率の向上には必要不可欠であり効果的に運用されています。												
	当面の課題	病院前救護を担当する救急隊員と、患者を受入れる医療機関の医師との連携を円滑に行なう必要があり、医師と救急隊の相互理解を深め東温市医師会とも良好な関係を維持していく必要があります。												
	改 革 画	脳卒中患者の急性期治療を充実させる為には、救急隊のレベルアップと医師の救急隊に対する理解が必要であり、医師を講師に招き検討会や訓練を実施する事により相互理解を深めます。また、東温市医師会とは救急業務や医師会が主催するイベント等を通じて相互理解を深め、良好な信頼関係を維持していく必要があります。												
	二次評価者	警防課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
	二次評価での指摘事項	緊急性、重傷度の高い傷病者が早期に近隣医療機関で治療を受けられるよう医療体制の充実に努めて下さい。												

No.	022	—	2009	事務事業名	救急救助技術の普及・啓発及び指導に関する事務	細事務事業名	管内小学校への着衣泳の指導・指導マニュアルの作成	公的関与	1
-----	-----	---	------	-------	------------------------	--------	--------------------------	------	---

P L A N	課 名	警防課	係 名	救急救助係	電話番号	089-964-5210	メールアドレス	keiboka@city.toon.ehime.jp		
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度	期間設定なし
	総合計画	政策目標	第1章 地球と共生する快適環境のまち			政策項目	6 消防・防災体制の充実		主要施策	(4) 消防・救急体制の充実
	事業の対象	管内小学校（全生徒）				根拠法令				
	事業の目的	最終的	着衣泳の普及と水難事故ゼロを目指します。				今年度	着衣泳の必要性和自分の命を守る為にながてできるか正しい理解を深めます。		
	活動内容	①	着衣泳指導職員の育成及び指導員のスキルアップ講習への参加				④			
		②	広報掲載及びパンフレット作成				⑤			
		③	着衣泳の実技指導							
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	最終目標
		着衣泳「ういてまて」合言葉の周知		管内小学校の講習回数		回数	目標	7		
実技指導		参加者人数		人	実績	1,879	1,880	1,824		
指導員のスキルアップ		指導員のスキルアップに関する講習回数		回数	目標		4			
					実績					

D O	予算費目	会計	一般会計		費目名	消防		費	
	直接事業費		平成 25 年度決算	平成 26 年度決算	平成 27 年度予算	備 考			
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円				
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円				
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円				
		一般財源	0 千円	0 千円	0 千円				
		計(A)	0 千円	0 千円	0 千円				
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.077 人	469 千円	0.077 人	463 千円	0.077 人	464 千円	
臨時職員工数・経費		0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円		
全体事業費(A+B)		469 千円		463 千円		464 千円			

C H E C K ・ A C T I O N	一次評価者	救急救助係	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	現状維持
	項目	評価項目の説明（一次評価者のコメント）												
	必要性	水難事故ゼロを目指し、子供達に命の尊さを考えさせる時間が必要です。												
	有効性	偶然遭遇した災害に対応できるようになります。												
	達成度	指導員の指導能力の向上を図ることにより、指導の幅が広がります。												
	効率性	着衣泳の実技指導について広報やパンフレット等により幅広く理解をしていただく必要があります。												
	当面の課題	小学校の生徒人数が多く、着衣泳指導員不足の課題及び指導員のスキルアップをする必要があります。												
	改 革 画	消防職員に対する講習を実施します。スキルアップ講習に参加し指導能力の向上を図ります。												
	二次評価者	警防課長	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項		指導能力の向上を図り、水難事故ゼロを目指すよう指導を行って下さい。												

No.	022	—	2010	事務事業名	救助方針に関する事務				細事務事業名	救助技術の向上・資機材の検証				公的関与	1
-----	-----	---	------	-------	------------	--	--	--	--------	----------------	--	--	--	------	---

PLAN

課名	警防課		係名	救急救助係		電話番号	089-964-5210		メールアドレス	keiboka@city.toon.ehime.jp				
事業区分	ソフト事業			事業運営方法	直営		実施計画	非該当	事業期間	年度	～	年度	期間設定なし	
総合計画	政策目標	第1章 地球と共生する快適環境のまち			政策項目	6 消防・防災体制の充実				主要施策	(4) 消防・救急体制の充実			
事業の対象	消防職員						根拠法令							
事業の目的	最終的	多種・多様化する災害に対応できる隊員の育成を行い、災害対応能力の向上を図ります。					今年度	若手職員の育成						
活動内容	①	高度な救助技術及び全国的な資機材の活用情報の収集					④							
	②	災害想定訓練の実施と検討					⑤							
	③	各種救助現場の検証及び検討												
成果指標	指標名			計算式又は指標設定理由			単位		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	最終目標		
	救助資機材の熟知及び活用方法の決定			救助資機材の熟知訓練回数			回数	目標	24	24	24			
								実績	12	12				
	現場活動の検証及び検討			災害現場活動検証回数			回数	目標						
								実績	27	30				
	想定訓練事案の検討			想定訓練の実施回数			回数	目標	14	14	14			
実績								14	14					

DO

予算費目	会計	一般会計				費目名	消防				費	
直接事業費		平成 25 年度決算		平成 26 年度決算		平成 27 年度予算		備考				
	国・県支出金	0 千円		0 千円		0 千円						
	地方債	0 千円		0 千円		0 千円						
	その他特定財源	0 千円		0 千円		0 千円						
	一般財源	0 千円		0 千円		0 千円						
	計(A)	0 千円		0 千円		0 千円						
人件費(B)	正職員工数・経費	0.077 人	469 千円	0.077 人	463 千円	0.077 人	464 千円					
	臨時職員工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円					
全体事業費(A+B)		469 千円		463 千円		464 千円						

CHECK・ACTION

一次評価者	救急救助係	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明（一次評価者のコメント）												
必要性	大災害に備え、資機材の整備及び隊員の育成を図る必要があります。												
有効性	装備の充実を図ることにより、広範囲な災害に対応が可能です。												
達成度	資機材の検証及び活動内容の検討を行っていく必要があります。												
効率性	訓練の充実性は認められるが、災害対応能力の向上を高める必要があります。												
当面の課題	現場活動において、活動方針や資機材の使用法等理解が困難な場合が発生する可能性があります。												
改計画	一定の救助方針を定め、資機材にあっても検証を実施し、安全・迅速な活動ができるように努めます。												
二次評価者	警防課長	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項		大災害が危惧されるなか、若い隊員の育成を行い、災害対応能力の向上に努めて下さい。											

No.	022	—	2011	事務事業名	緊急被ばく事務			細事務事業名	緊急被ばく医療に関する事務			公的関与	1
-----	-----	---	------	-------	---------	--	--	--------	---------------	--	--	------	---

PLAN

課名	警防課		係名	救急救助係		電話番号	089-964-5210		メールアドレス	keiboka@city.toon.ehime.jp			
事業区分	ソフト事業			事業運営方法	直営		実施計画	非該当	事業期間	年度	～	年度	期間設定なし
総合計画	政策目標	第1章 地球と共生する快適環境のまち			政策項目	6 消防・防災体制の充実			主要施策	(4) 消防・救急体制の充実			
事業の対象	消防職員						根拠法令						
事業の目的	最終的	特殊災害に対応できる人材育成					今年度	緊急被爆指導者育成、研修会への参加及び検討会の実施					
活動内容	①	患者搬送マニュアル作成					④						
	②	被爆防止対策の実施					⑤						
	③	特殊災害想定訓練											
成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由			単位		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	最終目標		
	県及び全国の市町の取組状況の把握		情報把握件数			件		目標	3	3	2		
								実績	2	1			
	特殊資機材の取扱周知		特殊資機材の取扱訓練実施回数			回数		目標	12	12	12		
								実績	2	3			
	専門的な知識を持った隊員の育成		専門講習機関への研修及び修了者の講習人数			人		目標	34	34	34		
							実績	32	32				

DO

予算費目	会計	一般会計				費目名	消防				費	
直接事業費		平成 25 年度決算		平成 26 年度決算		平成 27 年度予算		備考				
	国・県支出金	0 千円		0 千円		0 千円						
	地方債	0 千円		0 千円		0 千円						
	その他特定財源	0 千円		0 千円		0 千円						
	一般財源	168 千円		179 千円		10 千円						
	計(A)	168 千円		179 千円		10 千円						
人件費(B)	正職員工数・経費	0.038 人	232 千円	0.038 人	228 千円	0.038 人	229 千円					
	臨時職員工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円					
全体事業費(A+B)		400 千円		407 千円		239 千円						

CHECK・ACTION

一次評価者	救急救助係	総合評価点	B	必要性	3	有効性	4	達成度	2	効率性	3	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明（一次評価者のコメント）												
必要性	特殊災害発生時は専門の知識を持った人材が必要です。												
有効性	特殊災害発生時に素早く対応ができます。												
達成度	装備資機材の充実を図ります。												
効率性	計画的な更新計画を進め財源の負担を軽減するとともに安全な活動を行います。												
当面の課題	特殊災害発生時には専門的な知識を持った人員及び、特殊な資機材が必要です。												
改訂計画	特殊災害発生時に対応できる専門的な知識を持つ隊員の育成に努めます。												
二次評価者	警防課長	総合評価点	B	必要性	3	有効性	4	達成度	2	効率性	3	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項		特殊災害発生時には、専門知識を持った隊員の活動により市民生活の安全が図れるため、専門的訓練を継続して行なって下さい。											